

二松学舎大学陽明学研究センター 学術講演会

日時：2022年12月10日（土）13:00～15:00

会場：二松学舎大学4号館6階 4061教室

13:00～13:05 開会挨拶 牧角 悦子（東アジア学術総合研究所長）

13:05～13:10 趣旨説明 田中 正樹（陽明学研究センター長）

13:10～13:30 報 告 王陽明の「格物致知」解釈について
中根 公雄（陽明学研究センター員）

13:35～14:25

基調講演

格致・誠意と真知—朱熹慎独説の再検討—

中 純夫（京都府立大学教授） ※オンライン

14:30～14:40 コメント 三浦 秀一（東北大学教授） ※オンライン

14:40～14:55 質疑応答

14:55～15:00 閉会挨拶 田中 正樹（陽明学研究センター長）



■対面・オンライン併用

Zoomでのご参加は12月8日（木）15時まで
に以下のフォームよりお申し込みください。
開催日までにZoomのURL等をお送りいたし
ます。当日直接ご来場される方の事前申し込
みは不要です。

<https://forms.gle/Cwt1REJMFwo6jpx56>

二松学舎大学東アジア学術総合研究所
陽明学研究センター

〒102-0074

東京都千代田区九段南2-4-14

TEL:03-3261-3536

FAX:03-3261-3536

E-mail: yangming@nishogakusha-u.ac.jp

講師紹介

中 純夫

1958 年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学。現在、京都府立大学文学部教授。専門は中国近世思想史・朝鮮近世思想史。

[主著・編訳書]『朝鮮の陽明学——初期江華学派の研究——』(汲古書院、2013 年)、黄進興著・中純夫訳『孔子廟と儒教——学術と信仰』(東方書店、2020 年)、中純夫編『朱子語類訳注』巻 14～巻 18 (汲古書院、2013、2015、2018、2020、2022 年)。

講演概要

致知と誠意の関係をめぐり、朱熹には以下の二種類の発言がある。

(A) 知至は意誠の必要条件ではあっても十分条件ではない

(B) 知至は意誠の必要条件にしてかつ十分条件である

この問題につき、朝鮮の朱子学者韓元震も、吉原文昭氏も、(A)こそが朱熹晩年の定論だと主張する。しかし(A)(B)それぞれ複数存在する資料の発言・執筆時期を調査する限り、(B)から(A)へ、という立場の変遷を述べつけることはできず、むしろ最晩年に至るまで、両者は併存共存していたと見るべきである。

誠意は慎独の実践を通して遂行され、慎独は自欺の禁絶をその内容とする。そして自欺とは、為善去悪に際してその意志意欲が不実であること、自欺の払拭された状態とは、好色を好む如く善を好み、悪臭を悪む如く悪を悪むこと、即ち為善去悪を心から念願することである。ただ、為善去悪を心から念願し得るか否かは、自らの意志や理性とは異次元の問題であるはずだ。朱熹自身、自欺は自分では如何ともし難いものだ、と述べている。理性によって為善去悪を自らに課すことは可能でも、心からの念願までもを自らに課すことは、如何にして可能なのか。即ち慎独は、如何にして存立し得るのか。ここで注目されるのが、先の(B)の発言である。この主張に拠る限り、知至が実現しさえすれば、意誠=自欺の払拭=心からの念願は獲得されるということになる。

その場合に検討されるべきは、(1) 知至がなぜ、心からの念願をもたらし得るのか、(2) 致知が意誠をももたらすのなら、誠意には独立した実践項目としての存在意義はあるのか、という問題である。(1)については「真知」を手がかりに、(2)については「致知→誠意→致知→誠意」という循環的な実践手順を想定することにより、私見を提示したい。

